

令和六年 熱田神宮献詠歌 兼題 清

清々しき蓮池溜りに時を待つ御所への道はまだまだ遠し  
宮 司 千秋 季頼

神奈備のお清水様と称へらるる湧き水汲みて願成るを祈む  
名誉宮司 小串 和夫  
権 宮 司 多賀 颯

爽やかな明けの玉砂利踏む時に清き風ふく初夏のみまつり  
権 宮 司 芹田 治

清らかな五十鈴の流れ神代より今し身に沁む心澄みけり  
禰 宜 高橋 守

水無月の穢を祓ふ芦の串左右左に振れば身は清まれり  
禰 宜 宮川 一穂

清水の社に寄らば心もて澄み渡りたる湧水の涼  
禰 宜 小久保雅広

炎暑なる夏越しの茅の輪清々と鈴宮そよぐ風ぞ涼しき  
禰 宜 安江 英男

浄闇に鶏鳴三声朝告げ畏き絹垣清らに進む  
禰 宜 奥山 哲也

夏休み熱田の木陰賑やかに清き瞳の子供あふるる  
禰 宜 安部 修司

お清水で願いを込めて石柱に柄杓で三度水を掛けやる  
選 者 岡田 米子

清き流れに合はせて揺るゝ梅花藻の白き小花は初夏を告げゐる

選 者 大塚 寅彦

選 者 三留 享

選 者 吉田 淳美

持ち重るボトルに「清涼」と書きあるを飲めば一口だけ涼し

清らかな川の流に思ふなり老人ホームの母のつぶやき  
特別委員 永岡 淑恵

愛子さま清楚ながらも気品ありテレビに近寄りじつと見詰むる  
特別委員 田中 仁巳

木洩れ日に揺れる手水舎の風清し熱田の杜の緑かさねて  
特別委員 小塩 卓哉

底抜けるように青空広ごれり清々しくて手を差し伸べる  
披講所役 綾小路有紀

秋露祭東の空に月白く清風はらう月見の雲を  
披講所役 藤井 和文

若衆がどどどどどどどと踊り来て酷暑蹴散らすどまつりすがし  
披講所役 加藤 陽生

清々し熱田の杜に鳴く虫のあきの夜空に仲秋の月  
披講所役 野村 辰美

お手植の樟祝ふ御祭りは歌にて語る清し思ひを  
披講所役 手塚 晴彦

木漏れ日に遊べし百舌のさえずりが清しく聞こゆ秋の溪谷  
披講所役 大野 暖史

清まはり仕へ奉らむみ祭のゆゝしかりけれ蓬萊の宮

預選

一般の部

愛知県 坂野 加代

水落ちの音は清し深みゆく闇のまにまに螢飛び交ふ

岐阜県 水谷 修

清流の長良に浮かぶ鶴飼船鶴匠の手さばきかがり火に映ゆ

青森県 安田 溪子

癌いえし夫の好むレタスつむ雨後の光の清しき畑に

愛知県 飯田 智美

帰省せし息子が青葉の卓に置く社名の入りたる名刺の清し

埼玉県 木村 浩

大幣の空気切る音清々し夏の祭りの涼風となる

愛知県 廣浦 幸子

開け放つ明るき縁側初夏の清しき風がまつすぐに入る

東京都 笹生 守

渡り鳥影さす大地清らかにそよぐ稲穂の金色の音

千葉県 山之内俊一

稲穂揺る棚田の大土手刈り終へて清けき風に身をば投げ出す

愛知県 山下 豊子

橋桁より飛び込む少年清流に白き足裏見せて消へたり

長野県 小林 恒夫

夏の夜に清少納言も眺めけむ闇に飛び交ふ螢の二つ

小中学生の部

愛知県 河合 凜

一人きりあじさいの中ザアザアと清らかな雨心のシャワー

愛知県 大矢萌々香

祭りの夜ビー玉の音清々し君と飲み干す青色の夏

佳作

佳作

一般の部

東京都 岡崎 志昂

大八洲苗植ゑわたす水無月の清き山河をふるさとと為す

愛知県 伊神 和子

蜘蛛の巣にぶら下がりにる水滴よ清らかな水の旅のひとつ

愛知県 森下 貞子

清流のほとりに住みしは敗戦の少女でありし日ホテルを忘れず

神奈川県 大友 道夫

誰からも偉いなどの誉め言葉無けれどこの方清く生き来ぬ

愛知県 加藤 和美

清らかな瞳に映る若緑赤子を抱き鳥居を進む

愛知県 鈴木 健紀

白無垢の手託す義父の感涙につられて潤む目ぞ清らなる

愛知県 片瀬千香子

ネモフィラの丘のぼりゆく一面の清けし青の海と見紛う

新潟県 渡辺 敦

広前を払ふて清し夏の風舞楽の面の眉根ほぐさむ

御田植の御祭終えし齋田に玉苗ゆらす清らかな風  
愛知県 井上 博史

白樺の林を行けば清すがし両手を広げ深呼吸  
愛知県 上原 広代

田舟引き水田を歩む真菰刈り波紋清らかに広がる朝  
愛知県 中山恵美賀

小雨降る松の葉影に新芽伸ぶいま再びの生命の清し  
愛知県 高木 増祐

混迷を高潔に越ゆる大谷のひとみ賢明清しき師表  
鹿児島県 田中 司郎

柏手打つ神殿渉る風清し祈る小さき手吾の真似して  
愛知県 福岡 京子

清流の岸の葦の葉良しと言い包んで作る端午の粽  
三重県 福井 道子

眩しげに言葉選びて若き棋士勝利ののちもなほ清々し  
三重県 川瀬 和代

傍らに山葵の白き花掲げ真清水が涌く砂巻きあげて  
群馬県 菅谷千恵子

打ち揃い熱田の宮の砂利踏めば風清らかに渡る大楠  
愛知県 堀越 茂子

予後の身を畑にゆつくり鍬打てば清らに落とす汗の愛しも  
秋田県 三浦 善隆

マスクなし四年ぶりの演奏会清き弦の音ホールに響く  
愛知県 宮川 知子

### 小中学生の部

ひまわりの笑顔光らす君を見て心に吹いた清涼な風  
愛知県 古川 柚姫

退部の日清々しく去ること出来ず名残惜しくもさらばと言うよ  
愛知県 石川 翔也

見る下界紅葉の山の石清水キョートタワーも小さき京都  
愛知県 後藤 桂汰

清水のお寺に参る秋の朝紅葉のうみに染められている  
愛知県 鬼頭 篤輝

友の背を清風感じて追いかける夏の暑さも忘れて走る  
愛知県 北川 洸

テスト前雨音の中目を閉じて清らかな朝期待し眠る  
愛知県 浅井えるな

### 献詠集のご案内

神前に奉奠されたすべての詠進歌と、

当日歌会の入選歌を収録した献詠集を刊行いたします。

ご希望の方は小為替若しくは切手で六〇〇円(送料込) 同封の上、

〒456-8585 名古屋熱田区神宮二丁目一番一号

熱田神宮宮庁内

熱田神宮 献詠係

へお送りください(十一月頃刊行予定)。

献詠集希望者には来年より献詠祭の要綱を送らせていただきます。

選外佳作

一般の部

水ぬるむ清き流れに鮎の影きらりきらりと  
 石垢を食む 群馬県 近藤 周雄  
 郡上八幡の橋より飛び込む少年の若鮎のご  
 と清流跳ぬる 愛知県 大橋アサ子  
 清々し熱田の杜に響くのは襖に励む神職の  
 声 愛知県 中山 劉政  
 見上ぐればひとつばたごの白き花臯月の空  
 に清しく咲けり 愛知県 嶋津美智子  
 岨道に清く咲きたる笹百合は心の憂さを晴  
 らしてくれぬ 愛知県 蟹 尚行  
 目の前を横切つてゆく親燕清かに空の光つ  
 らぬく 大阪府 石橋 尚子  
 山峡の主なき家の庭先に今年も清らかな桐の  
 花咲く 静岡県 坂部 哲之  
 雪どけの清水も温み田に落す広がる鏡にふ  
 る里の山 長野県 松岡 保  
 あと八年余白の清き日記帳十年連記を励み  
 に老いる 神奈川県 鈴木 栄次  
 新しく筆をおろして墨を摩り清きその香に  
 ひと呼吸を為 滋賀県 木下 利孝  
 寝苦しき一夜明けゆく薄明かり桃の葉揺ら  
 す清らかな声のす 愛知県 森 美也子  
 ほつぽつと川の真砂に清水わき白き小花の  
 梅花藻そだつ 愛知県 谷川 清

夏あかね翅ひからせて飛ぶ野辺に露草青く清  
 かに咲けり 千葉県 守田 靖  
 樹木の根を浸して袂を流れる雪解け水は  
 清き香放ち 大分県 伊藤美佐子  
 祝い着の帯かな穂波に鈴付けて清しきひと  
 の参道歩む 福岡県 六月朔日光  
 隔てなく誰も拒まず湧く清水諸手に漱ぐこ  
 の星の幸 神奈川県 二界友理子  
 清明のホームをふたりぼろぼろと音符のよ  
 うに歩く晩春 愛知県 山田 拓也  
 切り干しを鈴鹿おろしに晒さんと網一杯に  
 清白ひろげる 愛知県 久野 利典  
 喜びも憂きことも越へ九十路今清らかに朝  
 日を拝む 愛知県 神谷 妙子  
 今年より看護師となり勤めたる孫の清楚な  
 姿まぶしき 福島県 安斎 和子  
 はやまるな生きて見守れと清冽な声は身裡  
 に今も響みて 三重県 青木 和子  
 鳥海山の湧き出る清水を両の手で含めば山  
 毛櫛の香り広がる 岩手県 佐藤 政勝  
 御劔の鎮まり坐せる清宮は敬ひ寄せて神威  
 を増せり 愛知県 青野 賢次  
 校訓は「剛健・清楚」同窓の娘と語るジェン  
 ダーフリー 愛知県 成田 信行  
 父のこと「清廉潔白」と人言いし貧乏だった  
 が誇りに思う 岐阜県 木藤 文彦

梅雨晴れて囀り清けき道清ら清夏成らじと  
 露も思はぬ 愛知県 大原 魁刀  
 石上朝な夕なに禊して大丈夫たちの身は清  
 らかに 愛知県 岡地雄太郎  
 毎日が清涼感まるで無く暑い日増々蝉の鳴  
 き声 愛知県 覚張 敏之  
 今日もまた夏が過ぎ去る清らかに川の流れ  
 の過ぎゆくように 愛知県 鈴木 そら  
 清らかな湖の音美しい心落ち着く休暇の朝  
 愛知県 白星 優衣  
 清月よ闇を一太刀照らし出せ心のまやか  
 清き風神域に吹くその音に我が心もて神を  
 敬へり 愛知県 鏡味知咲杜  
 清らかなり 愛知県 松尾 伊織  
 子が走る母はあわてておいかけろ笑みがこ  
 ぼれた清らかな愛 愛知県 村田 絢咲  
 東海道普通列車で東京へ静鉄抜けば「まもな  
 く清水」 愛知県 茶谷 空  
 授業中年表の「清」に印つけ思いを馳せるい  
 にしへの国 愛知県 林 美琴

小中学生の部

夏祭りラムネ片手に見た花火終わった後の  
 清い時間かな 愛知県 山田 祐輔  
 風鈴の中で金魚が泳いでる綺麗な音立て  
 清々しい 愛知県 大井 晴  
 叶ったよ空飛びたいという夢が空映りこむ  
 清流泳ぎ 愛知県 村瀬志歩佳  
 友達とシャリシャリ食べるかき氷心も音も  
 清々しくて 愛知県 浅井 爽笑  
 キャンプ場目の前広がるふじの山きれいな  
 空気で心も清らか 愛知県 伊藤 心彩  
 さらさらと清らかな音泳ぐ友つめたい水は  
 自然のめぐみ 愛知県 藤田 陽登



令和六年熱田神宮献詠歌集  
 (預選・佳作・選外佳作)

発行 熱田神宮宮庁  
 発行日 令和六年九月二十二日  
 住所 名古屋市熱田区神宮二丁目一番一号